

## 50周年を迎えます！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

2020年度3月から、いよいよ50年目に入ります。たくさんの生徒、父母そして先生方に支えられて今の茗溪塾はあります。兄妹で長い年月を在籍してくれた方もたくさんいます。教え子で専任講師になった方もいますが、非常勤の学生講師の多くは「教え子」です。塾の文化が生徒時代から講師時代まで受け継がれながら続いてきました。塾のやり方がそんな形で引き継がれてきたのです。

授業をしている時、周りにいる先生方を見渡すと、ほとんどが教え子たちであることに驚かされることがあります。ある意味では大変に恵まれた環境で仕事をしてきたようにも思います。

私自身40年以上の歲月この塾で仕事をしてきました。最初の教え子たちは既に50歳を超え子育てもそろそろ卒業する年代にもなってきています。教え子たちが子供を通わせてくれる例もすでに珍しくはなく、懐かしんでいるというよりは、責任をひしひしと覚えることの方が多い毎日です。

塾もここまで長くやってくると、順風満帆というわけではなく、幾度となく転機のようなものがありました。少子化や教育改革、生活スタイルの変化や社会状況、労働に対する考え方の変化など常に課題を突き付けられてきました。

多くの生徒の成功も見たけれど、思わぬ不幸にも直面しました。色々な生徒の顔や親の顔が昔のまま、思い出されます。

目の前の生徒や親と向き合いながら現実に対して何ができるのかが、塾での実践のすべてでしたが、そんな中で塾の必要性は、社会の中に定着し、特に受験における塾の役割は大きくなってきた気がします。そんな中、詰め込みで受験だけを突破しても、高学歴だけで生きていけない時代がきているのも確かです。自分で考え自分で解決する力が要求されます。これからは「自分の目的達成」のために若い時に受ける教育が大きく関係するはずで。

世界的な競争になるグローバル社会だからこそ、これからの時代の方がさらに教育の大切さが叫ばれるでしょう。大学の教育が大きく変わってきているのも、時代の要請だと思います。もしかしら子供たちにとって、「余裕のない時代」が加速するのかなという不安も感じます。

でも、直面している様々な困難を乗り越える方法にチャレンジし続け、1つ1つ解決し、その解決の方法を形に残す努力をしていけば道は開けるはずで。

子供たちが、受験の中で見せてくれた努力やそこで起こる奇跡が教えてくれているように、「目的」は「思うことで、成し遂げられる！」からです。新しい働き方を模索しながら100周年へと駒を進めていってほしいと思っています。